

平成31年度 学力向上指導改善プラン

三田市立狭間小学校長 佐野 秀樹

学校教育目標		「夢に向かってたくましく歩む子の育成」	
推進主体		学力向上推進委員会 (校長、教頭並びに学校改革、教育計画、学校評価、研究推進、生徒指導、保幼・小・中連携の各担当)	
学力に関する前年度の状況・経年の課題等			
学力の状況	全国学力・学習状況調査結果の状況(国語、算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む)	国語	<p>◇課題の一つとして取り組んできた「表現すること(話し合い)」について、国語科だけではなく様々な教科・領域における表現の場を提供し経験させることにより、子どもたちの力の伸びを感じることができた。思考の深まりにもつながってきたと感じる。</p> <p>◆「書く能力(記述)」については、新聞づくりや作文・感想文などの指導を行ってきたが、力の伸びを考えるとわずかであった。6年間でつくれる力ということで、長い目で見るのが大切だとは感じるが、日ごころからの授業での取り組みについては今後見直しをかけていきたい。</p>
		算数数学	<p>◇算数科の授業での取り組みや「はさまタイム」、新学習システム教員との連携での継続的な取り組みから、技能面(特に四則計算)での力の伸びが見られた。</p> <p>◆算数科の学習において、「図示やグラフ化する技能」について課題があると分析できた。今後の取り組みにおける効果を検証する必要がある。</p> <p>◆除法や数量関係に関する問題に対して課題がある。</p>
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	<p>◇「読書活動」や、はさまタイムでの「プリント学習」が、児童の生活において習慣化されており、「読解」「言語」「計算技能」等の力の向上につながっている。</p> <p>◆「ひょうごがんばりタイム」の対象を低学年に移したことで、高学年のサポートが薄くなることと予測される。各教科における学力向上への対応を模索しなければならぬ。</p>	
	授業等からうかがえる状況(各教科)	<p>◇各教科の授業の中で、書いて説明する活動を取り入れることにより思考力・判断力が徐々に上がってきた。</p> <p>◆表現力については、自分の意見として表現できた児童は限られている傾向にある。「ペア・グループ学習」を中心に、自分の考えを相手に伝えるような取り組みの継続が今後も必要である。</p>	
慣学・力生向上に慣係等の学状況	全国学力・学習状況調査の質問紙の状況	<p>◇「家庭学習」においては家庭における学習習慣について学校や学級担任から啓発したり、懇談等を通して伝えてきたところである。保護者のご理解と啓発の効果もあり、かなり改善できたと感じている。</p> <p>◆社会的な事象に関して、興味を持つ子どもが少なかった。</p>	
	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	<p>◇アンケート調査では、子どもの「授業に積極的に取り組んでいる」保護者の「学校の勉強が分かっている」の項目で、意欲的に学習に取り組んでいる姿勢がみられた。</p> <p>◇読書活動については、引き続きの取り組みで学校ではすすんで読書する習慣が身につけてきている。家庭に広げていくことが課題である。</p> <p>◆学習に向かう姿勢について、与えられたことには真面目に取り組むが、主体的とは言いえない。</p> <p>◆児童も保護者も家庭学習に課題があると感じている。</p>	
校内研究・研修の状況	校内研究の状況	<p>◆学習指導要領の改訂を踏まえて、英語・外国語活動のカリキュラムや音声指導、文字指導、評価について、昨年度までの取り組みを一層具体化し、「はさまスタンダード」を作成していく必要がある。</p>	
	校内研修の状況	<p>◆児童理解の研修会や、特別支援、生徒指導、人権、教科などの研修を通じて、「子どもの共通理解」や「教師のさらなる指導力の向上」をめざす必要がある。</p>	
家庭・校種間連携	家庭・地域等の状況	<p>◇学校地域運営協議会でボランティアの依頼について連絡でき、活用ができた。また、職員への周知の結果、余裕をもってボランティアの依頼ができた。</p> <p>◆学校支援ボランティアに関する情報の職員への周知を図る。</p>	
	小・中における教科連携等の状況	<p>◆理科・英語の出前授業が継続的に行われているが、教科にかかわる教師間の研修や連携を実施するには至っていない。</p>	
4月		成果となる目標	具体的な行動目標
学力向上に向けての重点的な目標		(指標となる数値等)	(成果目標達成のための具体的な手立て等)
<p>○体験や考えを言葉で伝え合うことで、楽しさや自身の思考の深まりが感じられるように授業改善を図る。</p> <p>○言語領域を中心とした基礎・基本力の更なる向上を図り、特に表記する力(記述する力)の向上については重点的に取り組む。</p>		<p>・国語科で学び得た力を発揮させる場の設定を行う。</p> <p>・課題条件に合った「書く」活動の場を増やす。</p>	<p>・言語内容については、漢字テストなどで達成度を把握し、達成不十分な児童に対してサポートする。</p> <p>・新聞づくりなど、決まった字数で考えを伝えたり、図やグラフを用いて意見を明確にする活動を様々な場で取り入れる。</p> <p>・文の内容をより正確に理解させるために、文の構造に着目して読めるように指導する。</p> <p>・音読指導を通して、目的や心情に合う話し方を選ぶ活動を取り入れる。</p>
<p>○計算など技能領域を中心とした基礎・基本力の更なる向上を図る。</p> <p>○根拠をもとに考えたり説明したりする学習を通して、課題解決の達成感と学ぶ楽しさが感じられるように授業改善を図る。</p>		<p>・説明などの言語活動を取り入れた算数的活動の充実を行い、正答率を更に向上させる。</p>	<p>・「はさまタイム」のドリル学習などを通して、四則計算の定着を図る。</p> <p>・高学年では、新学習システム教員と連携しながら、個別指導の充実を図るとともに、自分の考えや説明を発表する機会をより多く設定する。</p> <p>・児童の実態に合わせたカリキュラムの見直しを試み、授業改善等を行う。</p>
<p>○全ての教科につながる基礎的知識の理解力や豊かな語彙力の向上を目指す。</p>		<p>・各学年で学習した漢字の読み書きができ、語句を正しく使うことができる。</p> <p>・各学年で学習した計算ができる。</p>	<p>・「はさまタイム」のドリル学習などを通して、漢字をはじめとする基礎的な言語力の定着を図る。</p> <p>・「はさまタイム」の基礎的な計算プリント練習を通して、四則計算の定着を図る。</p>
<p>○書くことや発表すること(表現力)を高めるため、各教科の授業改善を図る。</p>		<p>・各教科の授業に生きる自己評価の向上を目指す。</p> <p>・授業の振り返り内容を確認しながら、話し合い活動における自らの考えの広さや深まりを増やし、児童のつまづきを減らす。</p>	<p>・授業の「めあて」の提示と「振り返り」を習慣化する。</p> <p>・話し合い活動を充実させるため、「ペアグループ活動」等の場の設定を更に授業に取り入れる。</p> <p>・全教員による授業の自己研鑽を図る。</p>
<p>○家庭で学習する習慣を確立できるようにする。</p> <p>○家庭学習が授業に活かされるような課題を工夫する。</p> <p>○学校や家庭での読書活動を推進する。</p>		<p>・家庭学習の手引きを参考にしながら、学習に向かう児童の増加を目指す。</p> <p>・本を読むことを楽しむ児童の増加を目指す。</p>	<p>・家庭学習の指標となる家庭学習の手引きを作成し、学級懇談や家庭訪問で配布し保護者に説明を行う。</p> <p>・家庭学習の手引きの活用について、継続的に啓発を行う。</p> <p>・家庭学習について、学年に応じてどんな内容をどんなふう学習したらよいか児童に具体的に示し指導する。</p> <p>・学校司書・図書ボランティアとの連携をはかり、読書に興味をもてる工夫をする。(読書通帳による表彰など)</p>
<p>○主体的に楽しみながら英語や外国語を学び合う子どもを育成する。</p>		<p>・全教員が授業公開を実施する。</p> <p>・研究授業では、事前研修会を持ち、研究課題を明らかにし、ワークショップ型の事後研修会により成果と課題を共有する。</p> <p>・毎授業ふりかえりをおこなう。フォニックスを3年生から取り入れ、音声と文字のつながりを意識させ、関心、意欲の向上を目指す。</p>	<p>○全教員が授業公開を実施し、事前・事後研修会にて成果と課題を共有できている。外国語活動研究発表会を通して、準備・運営等についてふりかえり、必要に応じて今後の研究内容を改善する。</p> <p>○評価や授業計画にふりかえりを活かしている。</p> <p>○フォニックス指導法の校内研修を行い、教員の共通理解を目指した取り組みを続けている。</p>
<p>○児童の特性にあう支援を行う。</p> <p>○教科や教材にあった授業展開を通して、児童の基本的な力を育成する。</p>		<p>・全ての児童にとって分かりやすい手立てを講じた授業を構築する。</p> <p>・児童の苦手意識を軽減させるとともに、得意な面を増やすような支援を模索する。</p>	<p>・特支と生指の児童理解の研修会を年度当初に行い、巡回相談や教育相談を積極的に活用する。</p> <p>・研修資料の共通理解と共有行動を図る。</p> <p>・各教員の得意な教科や分野、領域、指導法を交流することで、さらなる授業改善を目指す。</p>
<p>○地域ボランティアと連絡を密に取り、要請しやすい体制を整える。</p>		<p>・学校支援ボランティアについて、見直しを持ち、有効活用できるようにする。</p>	<p>・年間を通して、ボランティアとの交流を単元構想の中心に位置づけるように連携を考えていく。</p>
<p>○教師の専門性を生かして教科担任制を推進していく。</p> <p>○小学校と中学校とで挨拶運動の連携を強化する。</p>		<p>・教科担任制の充実により、基礎学力の向上や中学校への円滑な移行を図る。</p>	<p>・交換授業等による教科担任制の授業を実施する。</p> <p>・中学校の理科や英語の出前授業を行う。</p> <p>・英語の研究授業や研修について中学校区にも案内していく。</p> <p>・生徒指導上の情報を共有し、連携を深める。</p>
<p>10～11月</p>		<p>中間評価</p>	<p>(今年度の全国学力・学習状況調査、研究の成果などを踏まえての設定目標等の見直し)</p>
<p>2～3月</p>		<p>年度末評価</p>	<p>(今年度の成果と来年度に向けた課題等)</p>
<p>評価</p>			
<p>◇ここ数年、課題として取り組んできた「表現力」については、様々な教科・領域における表現の場を提供し経験させることにより、子どもたちの力の伸びを感じることができた。思考の深まりにもつながってきたと感じる。「書く能力」についても継続的な取り組みにより力の伸びが見られた。</p> <p>◆「言語力(漢字)」については、6年間でつくれる力ということで、長い目で見るのが大切だとは感じるが、漢字の成り立ちに興味を持たせながら指導すると共に、ノート指導や掲示についても取り組んでいくつもりである。</p>		B	
<p>◇算数科の授業での取り組みや、新学習システム教員との連携での継続的な取り組みから、特に計算技能面での力の伸びが見られた。</p> <p>◇算数科の学習において、学力調査から本校児童が「図やグラフ化する技能」について力をつける必要があると捉え日頃の授業実践に取り組んできた。本年度の取り組みの中で、技能の向上が見られた。</p> <p>◆担任と新学習システム教員の連携(授業展開)をはかったり、「ひょうごがんばりタイム」を活用したりしながら、立式についての思考力アップを図ってきた。個々の授業において改善は見られるものの、全校的な共通実践を図っていく必要性を感じる。</p>		B	
<p>◇日ごころからの継続的な取り組みが漢字や計算技能の向上につながっている。本年度の取り組みが、定期テスト等でも結果となって表れてきたと思われる。来年度もこの積み上げを継続すると共に、新学習指導要領に合わせた学力の定着を図るよう取り組んでいく。</p>		A	
<p>◇一時間の授業の流れとして「めあて」と「振り返り」を意識して展開してきた。その取り組みが結果となって表れてきたと感じる。</p> <p>◇ペア・グループ活動を積極的に取り入れた授業展開も効果が現れている。今後もこの取り組みを継続したい。</p> <p>◆主体的に学習に取り組む子どもたちを目指し、授業改善を目指す。</p>		B	
<p>◆家庭学習について、年度末アンケートの結果、79.9%の児童ができていて回答している。宿題をする習慣は定着してきていると考えられる。保護者のアンケート「進んで宿題や調べ学習をしている」という項目では、65%という結果であった。家庭学習の手引きの活用をさらに推進し、自主的な学習にまで発展させられるような工夫が必要である。</p> <p>◇多くの児童が本を読むことを好んでいる。授業中での図書活用だけでなく、読書会や本の予約会、「図書まつり」など児童が図書に親しむ機会が多く工夫されている成果があらわれている。読書通帳の活用について広く紹介され、児童の読書への関心意欲となっている。</p> <p>◇「狭間フェスティバル」で、学習したことを全校児童・保護者・地域の方に向けて、体験・表現型で発表する場を設けた。児童は、これまでに学んだことを生き生きと表現できていた。</p>		A	
<p>○全教員が授業公開を実施し、事前・事後研修会で成果と課題を共有できた。</p> <p>○これまでの研究や体制をふりかえることができた。必要に応じて今後の研究体制、内容(研究テーマ・評価方法等)を改善していく。</p> <p>◆来年度は、狭間独自の合理的な指導案を各学年の年間授業計画に整理していく。</p> <p>◆フォニックス指導法の校内研修を年度初めに設定し、定期的に取り組むを続ける。</p>		B	
<p>○巡回相談や教育相談を活用して児童理解に取り組めた。今後も次年度に向けた引継ぎを視野に入れて取り組んでいく。</p> <p>○道徳・生指研修等を通して、子ども心に寄り添う授業を目指し、教師の授業力向上につながった。</p> <p>○各分野の研修資料を共有し、校内研修で交流する機会を設け、授業改善につながった。</p>		A	
<p>◇年間を通して、毎朝の登下校の見守りをしてくださる「子ども見守り隊」、週3回活動されている「図書ボランティア」、延べ176名にもなる「学習ボランティア」など、多くの方々の活動に支えられ、交流に取り組むことができた。</p> <p>◆今後も引き続き、地域の人材を発掘し、連携体制を整えていく。</p>		B	
<p>○教科担任制を実施することで、教師の専門性を生かし、基礎学力の向上を図ることができた。</p> <p>○小中連携により、学期に1回の生徒指導上の情報交換、オープンスクールでの狭間中による体験授業、狭間中生徒会による中学生生活の紹介、狭間中による英語授業のビデオ視聴などをおこない、連携を深めることができた。</p> <p>◆小中連携体制を構築していく必要がある。</p>		B	